

第 1 7 1 回青森県立図書館協議会 会議概要

1 期日

令和 7 年 2 月 1 8 日（火）

2 開会

午後 1 時 3 0 分

3 閉会

午後 3 時

4 場所

青森県立図書館（青森市荒川字藤戸 1 1 9 － 7） 4 階 集会室

5 議題

- （1）令和 6 年度組織目標に対する評価（暫定）について
- （2）短期行動指針の進捗状況について
- （3）「図書館利用に関するアンケート」を踏まえた検討内容について
- （4）令和 7 年度組織目標（案）について
- （5）その他

6 出席者等

（1）出席委員の氏名

安田 奈津子委員、須藤 紀子委員、浜田 祐子委員、澤田 尚委員、
本間 維委員、小泉 敦委員

（2）欠席委員の氏名

竹浪 廣美委員、今井 邦子委員、秋元 宏宣委員、伊藤 友子委員

（3）出席した職員

仁和館長、岡村副館長、油布奉仕課長、葛西近代文学館室長
企画支援課：奈良岡副課長、前田副課長
奉 仕 課：原田副課長、木村副課長、清水副課長
近代文学館：石岡副室長
教育庁生涯学習課企画振興グループ：今社会教育主事

議題に対する委員の主な意見・要望等

1 令和6年度組織目標に対する評価（暫定）について

○委員

地方新聞のデジタル化について具体的な内容を伺いたい。

■事務局

地方新聞のデジタル版ということで実際に市販されているものを収集している。例えば東奥日報CD-ROM、DVD-ROM版といったようなものである。青森県に関連した内容のDVD、郷土出身のミュージシャンの音楽CDなども含まれている。

○委員

例えば、東奥日報はオンラインで検索できるのは平成17（2005）年4月から現在までである。デジタル版というのは何年から検索できるような形になっているのか。また、見出しについては新聞社でやるのか、それとも県立図書館で作業をやるのか教えてもらいたい。

■事務局

東奥日報のCD-ROM版については、東奥日報社で発行し始めたのが平成17年9月と記憶しているが、発行開始分から当館でも保存をしている。検索については、東奥日報の縮刷版に見出しの検索というのがCD-ROM版ごとに付いているが、記事の内容までは検索できなかったかと思う。ただ、東奥日報のインターネット版で購読者向けのデータベースのサービスがありキーワード検索などができるようになっているので、記事の日付などを確定するときには複合的に両方から検索するなどして対応している。県立図書館の方で新たに見出しを作ることに關しては、クリッピングの記事として作成しているが全部網羅しているわけではなく、青森県に關連する記事ということでピックアップして作成したり、連載ものの見出しについては、レファレンス業務の中でデータベース化したりしている。

○委員

目標値に対する達成状況について、行政支援サービスにおける図書の貸出点数の達成状況が振るわないように見受けられるが、例年、年度末にかけて研修が増えて貸出しが増えることがあるのか。それとも今年度何か貸出しが振るわなかった事情があるのか伺いたい。

■事務局

例年、春先から12月くらいまで研修・セミナー等のイベントが多く、それに合わせて出張展示貸出してみたいなことをすることが多いが、今年度は6月に本県開催の北日本図書館大会があった関係もあり、そちらに重点的に時間を割くこととなりイベントへの参加を多くできなかった。参加の依頼があつて、都合が合えば参加すると返事をするようになるが、今年度はそういった問い合わせに対しても時期的に対応できないとお断りをしたケースが何件かある。

○委員

そうすると依頼自体が減ったというわけではないということか。

■事務局

依頼数も年度によって温度差がある。令和5年度は県庁の、廃棄物関係とか、消費者センターの繋がりというところから依頼があつて参加したが、あまり関心を持ってもらえず利用に結びつかないということもあった。県立図書館としてはこういったサービスもしているとPRもしたいので出向いて行つたが費用対効果としてはあまり良くなかつたところもあったので、今年度はテーマ自体も子どもとか教育関係とか、図書館に親和性のあるようなテーマでのイベントには積極的に参加するような形をとっていた。

○委員

近代文学館において、以前からフェイスブックを利用した広報活動を展開していて効果が上がっており、今回もフォロワー数が増えているという報告があつたが、フェイスブック以外のサービスを利用した広報活動というのを既に行っているのか、また今後展開していく予定はあるのか伺いたい。私も大学での業務の中で、学生募集でフェイスブックを使うのがいいのか、インスタグラムを使うのがいいのか、どのチャンネルなら届くのかといった話をする機会があり、どういう媒体サービスを使っていくのかを近代文学館としてはどう考えているのか伺いたい。

■事務局

後ほどの議題で、近代文学館の検討事項としてフェイスブックのSNSよりは、例えばX、旧ツイッターだったりとか、インスタグラムだったりとかの方がもっと幅広いところに訴えかけられるのではないかというところを検討内容として挙げているが、近代文学館はあくまでも図書館の中のもので、独自にSNSとかを導入したりホームページを開設したりはしないので、企画支援課と連携を取りながら、フェイスブック以外のSNSについて前向きに導入することを見越しながら検討していきたいと考えている。

○委員

企画支援課からは、これまでは図書館におけるSNSの活用という話が出てくることは少なかったと思っていたが、SNSの利用についてどのように考えるか。

■事務局

企画支援課では、何年か前はフェイスブックを開設していたが現在は止まっているという状況となっている。ただ図書館の活動を知ってもらうためにはもっと広報しなければならないと考えている。近代文学館と横並びにフェイスブックをやるのか、またはインスタグラムとかXとかも考えた方がいいのではないかという、そういった問題意識は持っているが、まだ具体的に進んでいない状況である。今後、いろいろな広報の仕方について考えていきたい。

○委員

今回のアンケートを踏まえた今後の対応のところでもPRを積極的にみたいなのが挙がっていたかと思う。かといってあまりチャンネルを増やしてもなかなか投稿する内容がないということもあるかと思うので、費用対効果の観点も踏まえてどういうチャンネルで、誰に届けるのかというところを図書館の中でもいろいろ検討すると思うので期待したい。

○委員

学校図書館支援研修を学校図書館シンポジウムと同日に開催することにより、特に学校・教育関係者の参加機会に繋がったとの説明だったが、学校においては学校図書館の充実は大きな課題で、このような形で学校関係者が研修会に参加する機会を得ることは非常に良いと思った。具体的に学校図書館関係者がどれくらい参加することに繋がったのか伺いたい。

■事務局

正確な数字ではないが全体で70数名の参加があり、先生方、教育委員会の方、教育事務所の方という学校関係者の括りでいくと半分くらいが学校関係者であった。

○委員

昨年度と比べてかなり増加しているということになるか。

■事務局

学校図書館支援研修は、どちらかというと公共図書館向けに学校図書館を支援するためにどういうことが必要なのかとか、学校図書館の現状がどういう状況なのかとか、その辺りを情報共有しながら考える内容の研修ではあるが、実態を知る意味でも学校の実状も事例報告として入れてもらったり、実際の先生方の活動状況も発表してもらう機会もあるので、これまでも学校の先生方が参加することも多かった。今年度は半々くらいの比率になっているので、かなり多かったのかなというふうには思っている。

○委員

私は地域学校協働活動推進員をしており、学校の要望を聞きながら学校の支援になることをPTAや学校の周りにいる方々とボランティアを募って行っている。学校からは学校図書の充実に関する要望が多く、定期的に集まって本の修理なども行っている。研修については、学校の先生もそうだが、PTAや学校支援ボランティアの方々にも広げてもらえたら、もっと学校図書の方の大変さもわかると思うし、技術面でも教えてもらう機会があればありがたいと思う。

近代文学館のパネル展について、県内全ての高等学校及び特別支援学校に加え、今年度から県内公立図書館及び公民館に案内を拡大したということだが、おいらせ町の図書館の方でも展示してもらい、すごくいい内容だった。貴重な資料で地方ではなかなか見ることができないので、本が好きな方、図書館に足を運ぶ方は見たかったと思うが、展示を知らなかった人が多かったと思う。

また、近代文学館で開催中の「あおもりの校歌」では、有名な作家がいろいろな学校の校歌を作詞している資料を展示しており、感激して見させてもらった。興味がある方はもっと喜んで見てくれると思うが、周知が少し足りないような気がするし、フェイスブックのフォロワー数ももっと増えてもいいと思う。もっと資料をアップしてもらって広まってもらいたいと思う。

○委員

市町村立図書館等への支援について、県立図書館の職員の方々に当町図書館へ訪問して指導していただきありがたく思っている。館長からも大変参考になりよかったと報告をもらっている。市部の図書館はある程度自前でできるが、小さい図書館は専門性に欠けるところもあり、県立図書館からの支援は一定のニーズがあるのでこれからもよろしくお願いしたい。

近代文学館の企画展では、素晴らしい方々が校歌を作っているんだなと驚きもありながら、大変素晴らしかったと思った。テキストマイニングの展示のところで立ち止まってじっくりと見させてもらった。時間がなくて校歌の試聴はできなかったが、この2つは画期的だと思った。来館者数は、目標の13,500人は突破するだろうと期待している。

2 短期行動指針の進捗状況について

委員からの意見なし

3 「図書館利用に関するアンケート」を踏まえた検討内容について

○委員

アンケート等の検討であれば、アンケート等の設問項目なども合わせて出してもらえ

たらしいのかなと思った。例えばアウトリーチサービスというときに、アンケートには「アウトリーチサービス（障害を持って来られない方への配布サービス）」と書かれているが、一般的にアウトリーチサービスと言ったときにはもっと幅広い。例えば移動図書館とかもアウトリーチに含まれるので、設問も一緒につけてあると良いのかなと思った。

また、回答は年度末までということだが、改めてウェブサイトでの周知を図るということを検討してもいいのかなと思った。ウェブサイトからアンケートを見るためには、見るまでに時間がかかっている。7月のお知らせなどでも埋もれてしまっているのも、改めて重要なお知らせのところにすとか、バナーに出すとかした方が年度末に向けて回答が得られやすいのではと思った。

検討項目「サービスの周知について」のところで、今回は、まずは来館者向けの掲示を更新するということから進めるということで検討したとのことだが、アンケートの分析の際に、例えばこういった人たちに周知が足りてないかみたいところは分析したのか。アンケートの中には、サービスの認知度、満足度のほかにもどのくらい図書館を利用しているのかも項目に入っていた。例えば、普段図書館に来る人がPR不足だと感じているのか、それともそのあまり来ない人にとってPR不足だったのか。その来ない人にとってPR不足だというときに、館内の掲示だけを更新したところで届かない部分はあるかと思う。どういう人たちに何が届いていないのかというところは分析したのか。

■事務局

今回のアンケートを見ていてショックだったのが、来館している方がわからないというものが多かったため、まずは館内の掲示とか直接のPRからということで、こういった検討を行った。もちろん館外のPRは必要であるし、どんどんしていかなければいけない、また今後SNSなども使ってということも検討していきたいところであるが、来館している方にわかってもらえていないということがすごく多かったのは、力不足を最も感じたところなので、まずは館内から行っていきたい。

○委員

来てる方に周知するとなると、館内の周知、掲示に加えて、カードの更新のときに利用案内の新しいものを渡すとかがあると思う。

■事務局

利用案内などは、ここ数年でかなり見直しをかけている。わかりづらいところは口頭で必ず説明したり、新しいサービスについて話をしたり、物を新しくしたものを渡したり、今バリアフリーサービスにも力を入れているので、なるべく簡易な表現で全てルビを振ったものなどを作り直して出しているが、一般室含め閲覧室内には来てカウンター利用しないで帰る方もかなりいるので、口頭だけでは駄目で、掲示とかでいろいろ見てもらえるようにしていかなければいけないのかなという検討はしていた。

4 令和7年度組織目標（案）について

委員からの意見なし

5 その他

○委員

アンケート結果を紹介してもらい、それを踏まえた検討内容を説明いただいた。様々な意見があり、アンケートに基づいた利用者の声を拾うことは大事なことだと思うが、これまで県立図書館がやってきたことに自信を持っていいのではないかなと思う。ここに書かれたマイナスの声だけではなくて、どちらかというとプラスの声が多いという気がする。なので、これからも頑張っていたきたいと思う。

最後に、協議会は年2回開催すると思うが、開催場所は県立図書館でないといけないのか。夏は問題ないが、冬は青森市外から来る場合交通の便があまりよくないので、例えば、駅の近くの施設で開催し、ますますいい方向を全員で検討できればいいと思った。

○委員

電子図書館体験会を、大学を会場に実施したという報告をいただいた。これを市町村の図書館でもできないかなと思って聞かせてもらった。私達は普段、利用者として県立図書館のカードを用い電子書籍を利用しているので、五所川原の図書館を会場に県立図書館の便利なサービスの紹介を私達職員ができると思った。県立図書館職員に出向いていただかなくても市町村図書館でできるかなと思って読んでいたが、そういうことができれば、図書館が県にもあり市町村にもあるという意味、電子図書館という意味も出てくるかなと思って資料を読ませていただいた。

各電子図書館の導入が始まって何年か経過し、いろいろな館の状況を見てみると、予算の問題で続けられなくなってやめたところが出始めている。電子であるということの意味を考えたとき、この電子図書館については各市町村が個々に設置するということはすごく効率が悪いと考える。他県で行っているような、県と市町村の協働電子図書館を設置することができたらいいと思う。当市も、紙の本を買う予算は頑張っているが、それにプラスして電子図書館用の書籍を買い続けるようなことは現実的ではないと思っており、今、県立図書館でやっていることをコンソーシアムとして市町村も参加させてもらえないかなという思いを抱いている。県と市町村の協働電子図書館を設置することとか、県立図書館の電子書籍の利用について直接県立の窓口に行ってお話を聞いてもらうことや、青森に来て教えてもらうということが難しい県民の利便性向上に繋がる取組と一緒にできないか、検討いただきたいと思う。できれば来年度、五所川原では電子図書館体験会のような活動をしてみたいと思っている。

○委員

大学での電子図書館普及イベントは学生も教職員もたくさん来ていて、短い時間だったが盛んに行われてたという印象だった。私も登録をして使ってみたが、サービスとしてももう少しこうなるといいと思うところは多々あるように感じる。例えば、蔵書数が少ないから仕方ない部分はあるが、キーワードで検索してもあまり思ったものが出てこなかったり、その一方で図書館であればキーワードが出てこなければ、本棚を眺めて見つけることができたりするが、この電子図書館はそういう機能がないのかなと思う。一覧でざっと見て、いわゆるブラウジングで探していくことがあまりできない電子図書館サービスなのかなと見ている。思ったような本が出てこないで利用が遠のきがちにもなる。既存のサービスを契約して利用しているものなのでカスタマイズとかは難しいが、どういう使い方をするとよいのかを、PRの中でも考えていただければと思う。検索をしても出てこなくてやめてしまう、ということが少しでも避けられるように、職員の方もいろいろ使ってみて、モデルケースというか何か紹介してもらえると継続した利用に繋がるのかなと思った。

○委員

学校の読書活動の実状ということで、子ども達の様子を見ていると低学年の子は比較的本を読む機会が多いが、だんだん学年が上がっていくと本を借りなくなる、読まなくなる現象があるように感じている。それに伴い、子ども達のゲーム、SNSに費やす時間が多くなり、学校の中で大きな課題になっている。ゲームをやる時間やSNS、スマートフォン等に触れる時間を読書に向けたいという思いがあり、読書に向ける時間が増えることによって自然にメディアコントロールもできてくるのではないかと考えている。本を読む機会を増やすための活動に学校でも取り組んでみたいと考えている。そのためには、これからの学校図書館が、子ども達が足を運びたくなるような素敵な場所になるようにしていかなければならないと感じている。今後とも学校図書館アシスト事業プラスの利用をPRしていただき、学校としても活用していきたいと思っている。

○委員

先日、図書館関係の研究会で青森の図書館の状況を話す機会があったが、2023年に教育委員会で行った子どもの読書活動の調査でも、学年が上がると本を読まないという結果がでている。小学校5年生と中学校2年生、高校2年生が調査対象だったが学年が上がると読まなくなるし、学年が上がるごとにスマートフォンの利用も増えている。本を入手する手段も、学年が上がるごとに図書館を使う人は減っていき、購入する人が増えていく。もちろん自由にお金を使えるようになっていくというのもあるだろうし、もしかしたら自分の興味関心というのが学校図書館だとか図書館の中に収まらなくなっているのかとも思う。そういったところでどうしても読まなくなっていくという部分は確かにある。

その発表には東北のいろいろな図書館の方が来ていたが、他県の方が非常に驚いていたのが青森県の学校司書の少なさである。他県は大体60%ぐらいの学校に学校司書がいるが、青森県は20数%くらいである。高校だともっと低い10%と非常に学校司書が少ない。先ほどアシスト事業プラスで学校の活動を支えていただきたいという話もあったが、そういう事業があることで、学校司書を配置しなくても県立図書館が手伝ってくれるからいいとなってしまうと良くないと思っている。これは県立図書館の役目なのかと言われると違うような気もするが、そういった各市町村に学校司書の配置を働きかけるとか、必要性の機運を高めるとかできないかと思っている。例えば学校図書館シンポジウムを、そういうことを訴える機会とすることも必要になってくるのではないと思う。アシスト事業自体は非常にいいことだと思っているし、現状必要だと思っているが、そうではなく、各図書館に学校司書などを配置して、その部分を担ってもらおうというのが青森県は必要なんだろうなと思って発表していたところである。学校図書館シンポジウムとかに教育委員会の方が積極的に来てもらえるよう、いろいろ呼びかけをしていただいていると思うので、学校司書配置の方も今後も継続していただけると良いなと思っている。

○委員

教育委員会の立場からだが、司書教諭は配置基準で学年2学級以上の学校に配置されるが、学校司書については財政当局でなかなか認めてくれない。教育委員会の職員がシンポジウムなどに参加して学校司書の必要性を理解しても、予算要求の段階で終わってしまうと感じている。もっと上の方々が集まるところでぜひやってもらいたいと思っている。当町の実状で言えば、学校司書を入りたいので財政措置があるはずだからと頼んでも毎年認められず終わってしまう。苦肉の策で、学習支援という制度を使って、司書教諭資格を所持している学習支援員に図書もお願いしながらやってもらっているのが現状である。いろいろな場面でそういった話題が出てくれれば大変ありがたいと思っている。